

シリーズ「国内外の天然ダム対策の文献紹介とその考え方」

国内外の天然ダム対策の文献紹介とその考え方

Introduction to the countermeasures on landslide dams and its theory inside and outside the country

砂防学会誌編集委員会

平成 23 年台風 12 号による紀伊半島大水害では、奈良・和歌山県内で 17 箇所の河道閉塞が形成され、うち一部は降雨中に満水となり越流・決壊し、土石流が下流集落を襲いました。深層崩壊に伴う大規模な河道閉塞では、湛水により天然ダムが形成され、その越流・決壊時には下流に甚大な被害をもたらします。

天然ダムが形成されたときに、どのような対策を講じるべきなのか、本シリーズでは、国内外の天然ダム対策に関する文献を紹介するとともに、その考え方を簡単に説明します。国外については、おもに中国と米国でのマニュアルや事例を取り上げて紹介します。

表に示す 4 編を予定し、当該文献に精通した方々に執筆をお願いしました。

第 1 回では、天然ダム対応の緊急対策工事に焦点をあて、日本、米国、台湾の緊急工事の事例を紹介します。

第 2 回は、中華人民共和国水利部が作成した『天然ダム応急対策ガイドライン』を基にして、中国での天然ダム対策の概要と考え方を紹介します。

第 3 回は、同時に形成された複数の天然ダムに対し、保全対象や決壊の危険性を判定し、対策レベルを設定する考え方を示します。第 2 回同様に中国のマニュアルの内容を基に構成しています。

第 4 回は、天然ダムが決壊したときの洪水波をどのように予測するかについて、その計算手法を紹介します。中国の資料を示しながら、日本の取組みと比較する予定です。

本シリーズの構成予定

	テ ー マ	執筆予定者
第 1 回	国内外で採用された天然ダム緊急対策工法	森俊勇
第 2 回	中国における天然ダム対策の考え方	亀江幸二・森俊勇
第 3 回	複数形成された天然ダムの危険度レベル分類基準	千葉幹・森俊勇
第 4 回	天然ダムの決壊による洪水並びに洪水波の計算手法	柏原佳明・吉野弘祐・森俊勇・千葉幹